

沖縄で初めて走った自動車

沖縄に初めて自動車が登場したのは、今から 95 年前の大正 5 年に、那覇の大坪商店の大坪岩次郎が宣伝目的で購入したのが最初とされています。

その自動車は、アメリカ・フォード社の T 型フォード、2.9 リッター、4 気筒のガソリン（当時のガソリンの呼称）エンジン車で、現在の自動車と違って、車体の前にあるクランクを力強く回してエンジンを始動させる方式で、そのエンジン音は「爆発音」といわれ、大人もびっくりして逃げ出すほどの大きな音であったとされています。

当時の自動車の速度は、現在の自動車と約 50 分程度でたどり着く、那覇～名護間を 5 時間かかったとされており、かなり遅い速度であったようです。

当時は運転免許制度もなかったようで、運転手は目的地までたどり着くか戦々恐々で休憩（ラジオターに水を補給しながら）しながら走行したかも知れません。



このナンバープレートの意味、
誰か分かる～？

はあ～むつかしいさ～



nakayukui
なか
ゆくい



沖縄の自動車と
ナンバープレートのあれこれ



昭和 38 年頃の
事業用ナンバープレート



昭和 26 年頃の路線バス



昭和 26 年頃のタクシー



昭和 38 年頃の
事業用ナンバープレート



昭和 38 年頃の
自家用ナンバープレート



昭和 29 年頃のトラック



昭和 47 年の本土復帰に伴う
通貨交換の現金輸送トラック



昭和 29 年頃の
事業用ナンバープレート

沖縄の自動車の登録・検査制度のはじまり

沖縄における自動車の登録・検査制度は、1947年8月15日に軍政府からGMC 2トン半トラック、720両の提供を受けたときから始まりました。

1948年当時は、警察局交通課で登録業務を行い、1952年の琉球政府発足に伴い、運輸局陸運課に登録検査業務が引き継がれ、政府業務としてスタートしました。

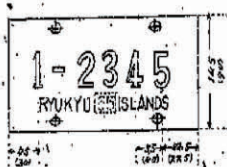
しかも、なんと当時(1954年)から、現在のような民間車検場がありました。それは窓口業務が煩雑しているとして、米国民政府の指示により琉球政府職員の検査官(4名)に政府業務(自動車検査業務)を代行させていたのです。今でいう民間活力を生かした行政であったようです。

ナンバープレートの変遷(種類)

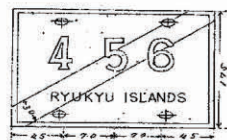
ナンバープレートの様式を定めていた琉球政府令(抜粋)と当時のナンバープレート

1954年(S.29)～

自動車登録番号表



臨時運行許可番号標



(事業用は黒地に白文字)



Aは事業用を表す

(自家用は白地に黒文字)



Bは事業用を表す

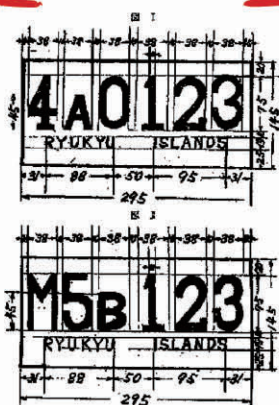


Fは琉球籍以外を表す

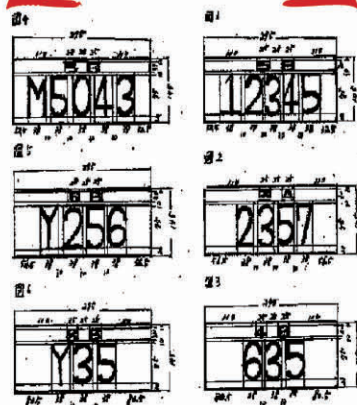


Yは八重山を表す

1963年(S.38)～



1966年(S.41)～



車種別番号

1	貨物自動車
2	乗合自動車
3	10名以下の乗用車
4	小型四輪貨物車
5	小型四輪乗用車
6	三輪貨物自動車
7	三輪乗用自動車
8	特殊用途自動車
9	特殊自動車

1972年(S.47)～現在



臨時運行許可番号標